



A子さんが描いた植松死刑囚のイラスト（『創』5月号より）

植松聖さんのこと（ほんの一端）

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会

東京都荒川区南千住一五九六三〇二
<https://sobanokai.hanamizake.com/>

二〇一六年七月二十六日に起きた相模原市・津久井やまゆり園事件のことをもう一度思い起こしておこう。一五〇人の重度知的障害者を収容していた障害者施設に元施設職員植松聖さん（当時二六歳）が侵入し起こした大量殺人事件だ。死者一九人、刺傷者二十六人という大惨事だった。

二〇二〇年三月に横浜地裁で死刑判決が出されたが、植松さん本人が控訴をとりさげた。現在は東京拘置所に収監されている。

三年間の施設労働の間（障害者に寄り添いたい↓障害者ヘイト、殺人）に彼にどのような変化をもたらしたのか、問題が多く残されたままだ。

『創』（創出版）二四年一月号によると「植松聖『獄中結婚』!!」相手女性A子さんは二四年九月初めに婚姻届を提出し、二五年三月によやく東京拘置所で植松さんに渡り、結婚が成立したとのこと。

本当によかった！何カ月も東京拘置所で保留されたままだった。「人を愛すること」は



植松死刑囚が描いたA子さんのイラスト（『創』7月号より引用）



植松死刑囚が描いたイラスト。「勇氣」「courage」の文字がある。（『創』5月号より引用）

植松さんは『真の愛情とは…一人の人をほんとうに愛するとは、すべての人を愛することであり世界を愛し生命を愛することです。確かにあなたを愛してる。ということがあなたを通して、すべての人を世界を、私自身を愛してると言えるでしょう』と言っている。

彼の新境地を評価したい。今後新たな表現が生まれるだろう。死刑囚表現展（八丁堀、松本治一郎記念会館）が今年も一月一〜三日に行われる予定なので出展される植松さんの作品を期待し注目したい。三年目を迎えようとしている死刑執行のない社会をずっと将来も続け「殺人のない社会」「死刑のない社会」を実現したいものです。（T）